

人工林 — スギ —

山形県の人工林は、86%がスギ林です。スギは柔らかいので加工しやすく、まっすぐに成長するので、主に建築用材として利用されます。建築用にならない部分は、ストーブや発電用の燃料としても利用されています。

ちいさき 地域にあるスギ林について考えよう！

- ・スギはどんな特徴があるかな？
- ・スギ林を手入れしている人をさがしてみよう。
- ・スギを育てている人はどのような工夫や努力をしているのだろうか。
- ・収穫するまでに何年くらいかかるのだろうか。

スギの木と葉

木を大きく成長させるために木の本数を減らし、木と木の間に適度な間隔をつくりまします。

かんぼつ 間伐

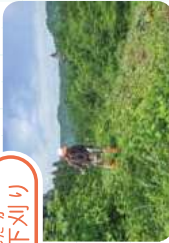


じよぼつ 除伐



植えた木の成長をさまたげる雑木や成長や形の悪い木を切りまします。

したがつ 下刈り



苗木の成長をさまたげる草を刈ります。

木を切ったあと、ふたたび苗木を植えます。

しゅぼつ 主伐



木を利用するために、切つて山から運び出します。

使う



ちゑる 植える



さいせうりん 再造林

地域でスギを材料に使つた建物をさがしてみよう！



スギを使った図書館（高島町立図書館）

病気で枯れた木や、形の悪い木などを燃やした熱などで電氣をつくることを「木質バイオマス発電」といいます。

「木質バイオマス発電」で電氣をつくる発電所が増えてきたことから、これまで使えなかつた木材に新しい用途ができました。



病気で枯れた木や形の悪い木



バイオマス発電所

昔から、木をまきにして、暖房や調理などに使つていましたが、火をつけたら消したりするのがたいへんでした、最近では、機械で小さく砕いた木質チップ、さらに細かく粉状にしたものを粒状に固めた木質ペレットがバイオマス燃料として注目されています。



木質チップ



木質ペレット



ペレットを燃やして暖めるストーブ